

「河川景観の形成と保全の考え方」の概要

目的：

- ・それぞれの河川にふさわしい河川景観の形成や保全をはかることを目的として、川づくりに関わる人々が、河川景観の形成と保全をはかるそれぞれの段階（調査、計画、設計、整備、維持管理、まちづくりとの連携、行政と市民等とのパートナーシップ、合意形成に向けた取り組み等）で参考となる、視点、考える手順、配慮事項、整理すべき情報、活用すべき手法等を示したものの。

主な特徴：

【あらゆる段階での景観への配慮】

- ・護岸等の個々の施設の整備段階だけでなく、河川に関する調査、計画、設計、整備、維持管理、まちづくりとの連携等のあらゆる段階において、景観に配慮した取り組みが必要との考えのもとに、それぞれの段階での、視点、手順、整理すべき情報等を整理。

【河川景観を理解し、目標を定めるための調査・検討の手順】

- ・地形・地質・生態系等の自然的要素（自然の営み）に加え、古くからの治水・利水の取り組みや行事、風習等、歴史・文化的要素（人々の営み）により河川景観が成立していることを理解し、河川景観の目標を定めることが重要であるとし、そのための調査・検討の手順等を整理。
・・・[2章、3章、6章]

【地域と共に河川景観を作り上げていく仕組みづくり】

- ・河川景観は、河川管理者によってのみ形成・保全されるのではなく、流域の市民、企業等多様な主体のパートナーシップ、合意形成に向けた取り組み等のプロセス、適切な河川空間利用等を通じて地域と共に時間をかけて作り上げていくことが重要であるとして、その仕組みづくりにあたっての視点、手法等を整理。
・・・[4章、5章]

【骨格のデザインと場のデザイン】

- ・これまでの、河川のある一定区間の空間設計や護岸等の構造物の形状、色彩等への配慮など、個別の景観要素を考え、ある場所における河川空間を整えること（場のデザイン）に加え、河川を上流から下流までの大きなスケールで捉えた際の、河川流量、河道形状や周辺の土地利用、まちづくり等の河川景観の大きな骨組みとなる要素への配慮（骨格のデザイン）の、双方が重要であるとして、それぞれにつき配慮事項等を整理。
・・・[7章、8章]

内容（目次）：

- 1章 「河川景観の形成と保全の考え方」の目的と構成
- 2章 河川景観を考える
- 3章 河川景観の基礎知識
- 4章 景観形成の仕組みづくり
- 5章 景観保全の仕組みづくり
- 6章 河川景観の調査と計画
- 7章 骨格のデザイン
- 8章 場のデザイン

本ガイドラインにより目指していく河川景観の例

●景観への配慮に欠ける河川



コンクリートで固めた画一的な直線河川



まちに背を向けられた河川



無機質で自然が乏しい河川

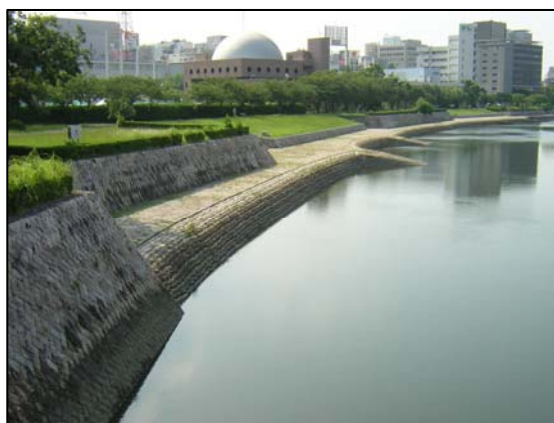
●それぞれの河川にふさわしい河川景観



その川らしい瀬や淵が配置された河川



まちづくりと一体となった賑わいのある河川



歴史・文化的要素を活かした河川